

# 最適資本構成と企業価値向上

当行グループはパーパスを基軸とした事業活動を通じて持続可能な社会の実現と経済価値の創造に努めています。

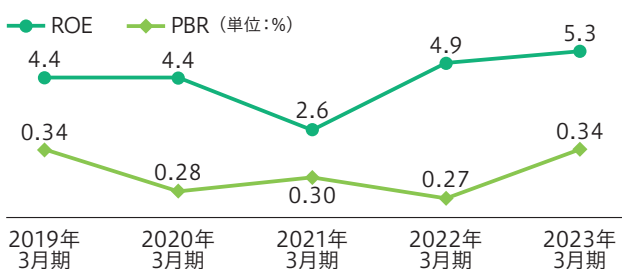
企業価値向上に向けた具体的な取組みとして、最適資本構成の構築を目指しながら、ROEの向上と株主資本コストの低減を図りエクイティ・スプレッドの改善を図っていきます。

エクイティ・スプレッド↑ = ROE ↑ - 資本コスト↓ ▶ PBR ↑

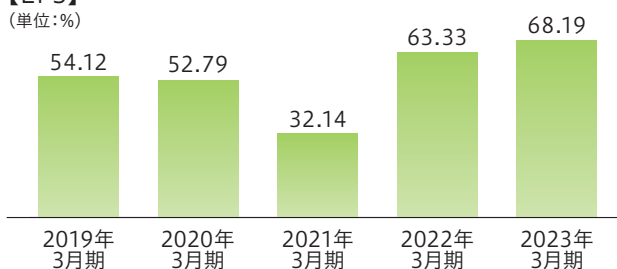
持続的な企業価値向上に努めるべく、リスクテイク・健全性・株主還元のパラバランスを勘案し、機動的かつ効果的な資本政策を実施していきます。



## ROE・PBR・EPSの推移



## 【EPS】



## 最適資本構成と ROE のめざす姿

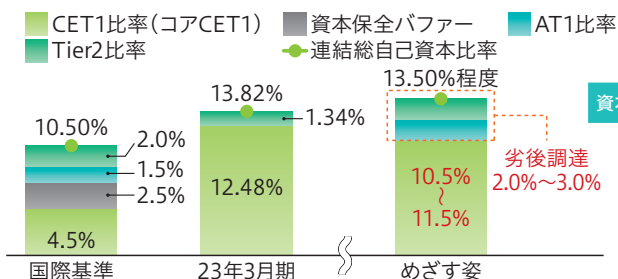
普通株式等 Tier1 資本から有価証券評価差額金を控除して算出した「コア CET1 比率」を資本運営の目線とし、中長期的なターゲットを 10.5% ~ 11.5% とします。

ROE 向上に向けた取組みとしては、中期経営計画の「つなぐ KPI」項目の達成や成長投資（リスクテイク）により、更なる収益力強化を図るとともに、機動的な株

主還元を実施し資本効率を高めていきます。中長期的に ROE7% ~ 8% を目指していきます。

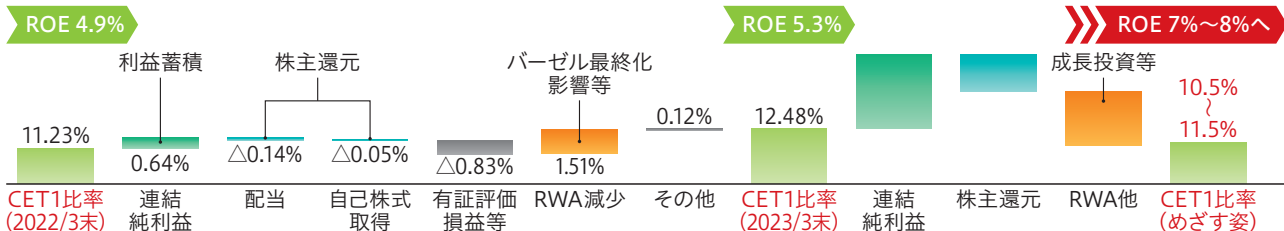
また、資本コスト低減のために、財務・非財務情報の積極的な開示、充実した IR 活動、ESG・SDGs への取組み強化等を図っていきます。

## 最適資本構成と資本運営



コア CET1 比率	オペレーション
11.5% 超	・機動的な株主還元の実施 ・収益力強化のための資本活用
【目標レンジ】 10.5% ~ 11.5%	・安定的配当を維持、機動的な自己株式取得 ・収益力強化のための資本活用と蓄積
8.0% ~ 10.5%	・安定配当を継続、リスクアセットコントロール ・コア CET1 改善に向けた資本蓄積
8.0% 未満	・還元方針見直し、リスクの削減、資本増強

## めざす姿に向けたキャピタルアロケーション



## RORA の活用

RORA 向上の取組みが、自己資本比率（健全性）と ROE（収益性）を向上させる有効な手段であると認識しています。高 RORA 資産の積極的な積み上げ、低 RORA

資産の改善等を通じて、銀行全体の RORA 向上を目指し、リスクテイクによる自己資本比率低下を抑制しつつ、ROE 目標の達成を目指していきます。

$$\text{RORA} = \frac{\text{収益}}{\text{リスクアセット}} = \frac{\text{自己資本}}{\text{リスクアセット}} \times \frac{\text{収益}}{\text{自己資本}} = \text{総自己資本比率} \times \text{ROE}$$

※全行的な RORA 目標において収益は当期純利益を指す。

目標 RORA	0.7% ... 中計目標 (総自己資本比率、ROE) より設定
目標値 0.7%	総自己資本比率 (長期目標) 13.5% ROE (長期目標) 5.0%